

ユーザの観点を利用した インスペクションについての考察



南山大学大学院 数理情報研究科 数理情報専攻
M2012MM022 森下 月菜

2013.08.24 発表

シナリオ

- ◉ 前回までのスケジュール
- ◉ 前回のおさらい: 研究概要
- ◉ 要求工学プロセス
- ◉ 要求仕様化のモデル
- ◉ 前回挙げた考察すべき事項
- ◉ ペルソナとは
- ◉ 提案方法の概要・仮説
- ◉ 研究概要: 修正
- ◉ 今後のスケジュール

今回は遂に
「ペルソナ」が登場



● 前回までのスケジュール

● 直近

● 8/10 ~ 8/17

- 視点の違いによって何がかわるか考察
- ユーザ視点で必要なもの, 着眼点について考察
- ユーザが求めるもの, 後工程で必要なものは?

今回の話題は
ここ

● 8/17 ~ 8/24

- ユーザ視点に必要なプラグマティック品質について考察
- インスペクションプロセス, 質問セットについて考察

● 8/24 ~ 8/31

- 合宿に向けてまとめ...られれば

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

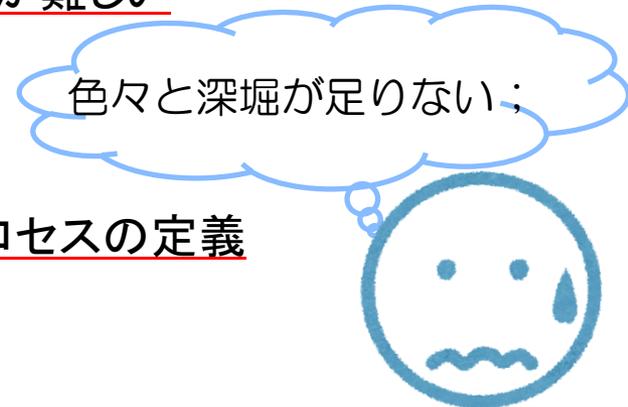
● 中間発表まで

- 8月上旬 : インスペクションの着眼点の検討
- 8月下旬 : インスペクションプロセスの確定, 予稿執筆開始
- 中間発表後 : 提案プロセスの検証方法の検討~適用, 他



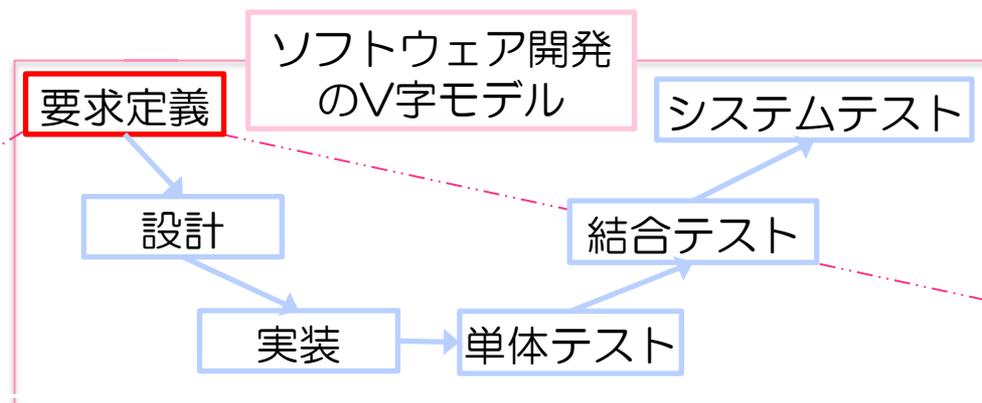
前回のおさらい: 研究概要

- テーマ
 - 要求の妥当性確認に関する研究
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法にPBR(Perspective-Based Reading)がある
- 課題
 - PBRを行うための質問セットを作成する指針はない
 - 質問セットの作成は属人的であるため, 人材確保が難しい
- 研究目的, 解決方法
 - PBRの質問セットの作成方法の形式化
 - 属人的要素を削減するためのインスペクションプロセスの定義
- 期待効果

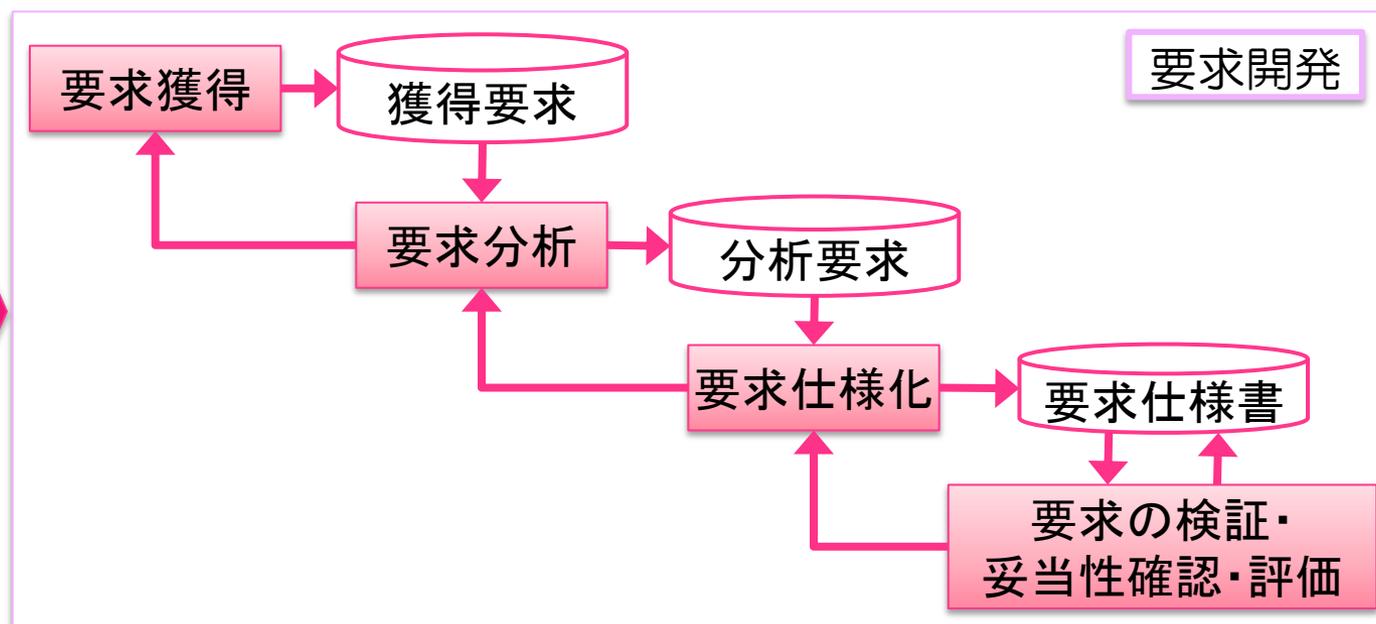


要求工学プロセス[1]

[1] REBOK 企画 WG, 要求工学知識体系 第1版, 近代科学社, 2011.

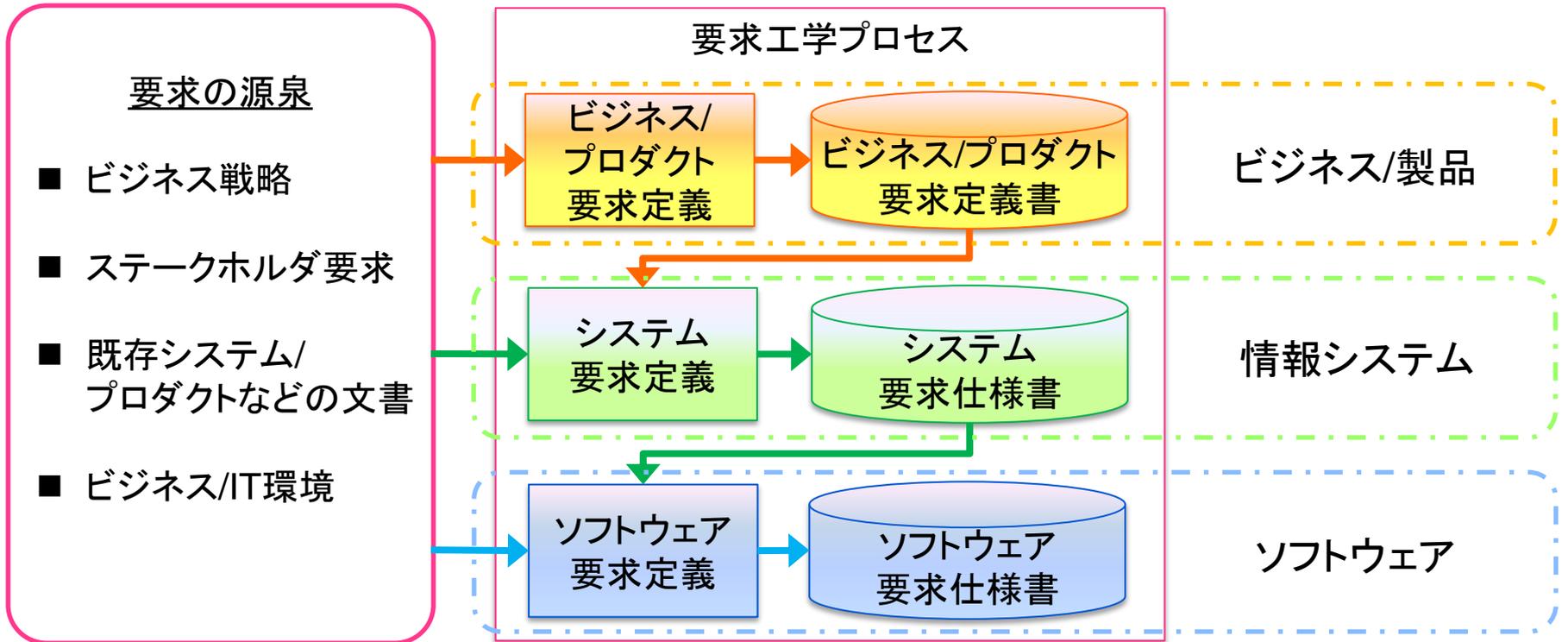


要求の源泉(ステークホルダ・文書等)



システム構築

要求仕様化のモデル



ビジネス/プロダクト
要求定義書

- システムA
- システムB

システム要求仕様書
A

- ソフトウェアA
- ソフトウェアB
- ソフトウェアC

ソフトウェア
要求仕様書
A

● 前回挙げた考察すべき事項

○ 直近

○ 8/10 ~ 8/17

- 視点の違いによって何が変わるか考察
- ユーザ視点で必要なもの, 着眼点について考察
 - ユーザが求めるもの, 後工程で必要なものは?

○ 8/17 ~ 8/24

ユーザ視点についての考察

◆ ユーザ = 発注者の場合

- SRSの内容が正しいかを判断できるユーザが傍にいる
- 第三者インスペクションチームにユーザ役を設ける意味が薄れる可能性
※インスペクションのインプットによっては薄れない

◆ ユーザ ≠ 発注者の場合(ユーザがエンドユーザ)

- ユーザによるSRSのチェックが困難な場合がある
- ペルソナ(仮想ユーザ)を利用することで, ユーザの観点から要求を満たすSRSか判断できる可能性

○ 8月下旬: インスペクションプロセスの修正, 本稿執筆開始

エンドユーザを視野に入れるためにペルソナを利用

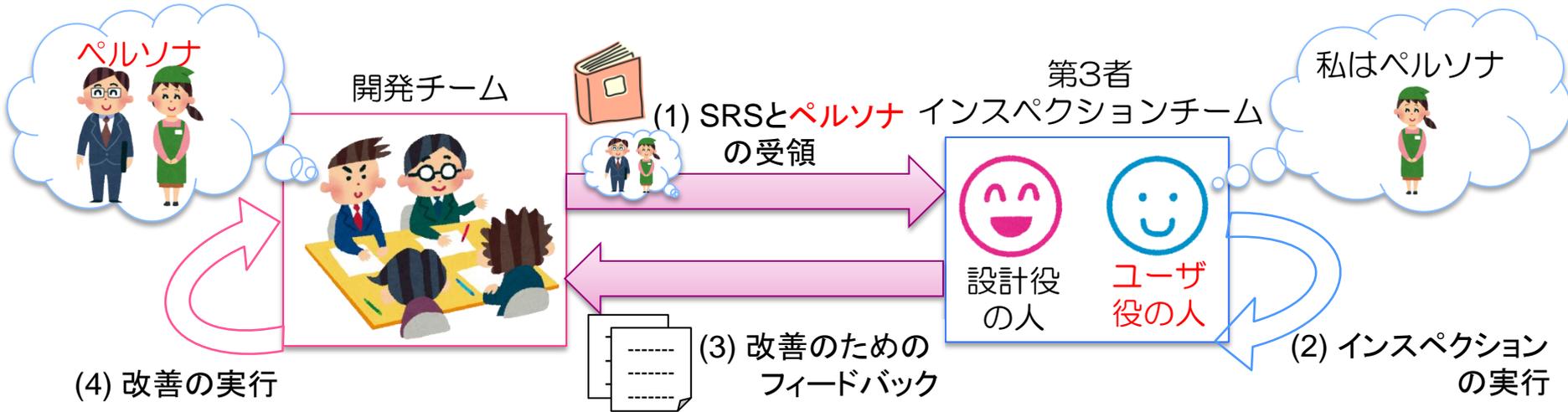
ペルソナとは



- 古典劇において役者が用いた「仮面」
- 心理学者ユングが「人間の外的側面」の概念をペルソナと呼んだ
 - ➡ マーケティングにおいて
「企業が提供する製品・サービスにとって最も重要で象徴的なユーザモデル」
の意味で利用[2]
- 製品やサービスをデザインする際にターゲットとして想定する仮想ユーザ
- 実在の人々を調査・観察し、得られたデータに基づいて典型的ユーザを定義
- 特定のユーザのニーズに沿った製品・サービスを作るために利用
- メリット
 - 多くの機能を盛り込みすぎ、全てのユーザが満足しないものになることを防ぐ
 - 2割の典型的なユーザ像を浮き彫りにすることで8割のニーズをカバー
 - ターゲットユーザを設計・開発チームで共有できる

パレートの法則

提案方法の概要, 仮説



- 社内システム, 市販されるシステム機器のいずれも使う人(エンドユーザ)が存在
 - ペルソナとして定義されたエンドユーザをインスペクションで利用
 - 要求開発チームとインスペクションチームで統一したユーザ認識を共有
 - ペルソナとSRSを比較することでSRSの漏れや過剰を発見
- 開発者のためのだけでなく, ユーザ(ペルソナ)のための設計ができる

◆ 懸念事項

- ◆ ユーザと設計役の人が並行でインスペクションを行うと競合発生の可能性
- ➡ インスペクションのタイミング, もしくは改善の実行順序の考慮が必要

研究概要: 修正

- テーマ
 - 要求の妥当性確認に関する研究
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法に PBR(Perspective-Based Reading)がある
- 課題
 - PBRを行うための質問セットを作成する指針はない
 - 質問セットの作成は属人的であるため, 人材確保が難しい
- 研究目的, 解決方法
 - PBRの質問セットの作成方法の形式化
 - 属人的要素を削減するためのインスペクションプロセスの定義

研究概要:修正

[3]青山幹雄他, ソフトウェア要求仕様の
第三者インスペクション方法論とその実践評価, 2012.

- テーマ
 - ソフトウェア要求仕様のユーザの観点からの第三者インスペクション方法の提案
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法にソフトウェア要求仕様の第三者インスペクション方法論[3]がある
- 課題
 - PBRを行うための質問セットを作成する指針はない
 - 質問セットの作成は属人的であるため, 人材確保が難しい
- 研究目的, 解決方法
 - PBRの質問セットの作成方法の形式化
 - 属人的要素を削減するためのインスペクションプロセスの定義

研究概要: 修正

[3]青山幹雄他, ソフトウェア要求仕様の
第三者インスペクション方法論とその実践評価, 2012.

- テーマ
 - ソフトウェア要求仕様のユーザの観点からの第三者インスペクション方法の提案
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法にソフトウェア要求仕様の第三者インスペクション方法論[3]がある
- 課題
 - PBRを行うための質問セットを作成する指針はない
 - 質問セットの作成は属人的であるため, 人材確保が難しい
- 研究目的, 解決方法
 - PBRの質問セットの作成方法の形式化
 - 属人的要素を削減するためのインスペクションプロセスの定義

研究概要: 修正

[3]青山幹雄他, ソフトウェア要求仕様の
第三者インスペクション方法論とその実践評価, 2012.

- テーマ
 - ソフトウェア要求仕様のユーザの観点からの第三者インスペクション方法の提案
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法にソフトウェア要求仕様の第三者インスペクション方法論[3]がある
- 課題
 - 設計者の観点からの検査のため, システムの多様なユーザに対応できない
 - ユーザの観点が反映されないため, 不必要な情報を削除できない
- 研究目的, 解決方法
 - ユーザの観点でペルソナを利用することで, 不必要な項目・情報を特定・削除
 - ユーザの観点でインスペクションするための手法の提案

研究概要: 修正

[3]青山幹雄他, ソフトウェア要求仕様の
第三者インスペクション方法論とその実践評価, 2012.

- テーマ
 - ソフトウェア要求仕様のユーザの観点からの第三者インスペクション方法の提案
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法にソフトウェア要求仕様の第三者インスペクション方法論[3]がある
- 課題
 - 設計者の観点からの検査のため, システムの多様なユーザに対応できない
 - ユーザの観点が反映されないため, 不必要な情報を削除できない
- 研究目的, 解決方法
 - ユーザの観点でペルソナを利用することで, 不必要な項目・情報を特定・削除
 - ユーザの観点でインスペクションするための手法の提案
- **期待効果**

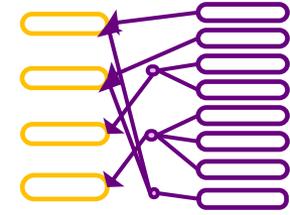
研究概要: 修正

[3]青山幹雄他, ソフトウェア要求仕様の
第三者インスペクション方法論とその実践評価, 2012.

- テーマ
 - ソフトウェア要求仕様のユーザの観点からの第三者インスペクション方法の提案
- 背景
 - 要求定義の成果物であるソフトウェア要求仕様書(以下, SRS)は, 要求定義以降の工程で利用される
 - ソフトウェア開発の成功はSRSの品質によって左右される
 - SRSの品質を確保するための要求の検証や妥当性の確認の手法にソフトウェア要求仕様の第三者インスペクション方法論[3]がある
- 課題
 - 設計者の観点からの検査のため, システムの多様なユーザに対応できない
 - ユーザの観点が反映されないため, 不必要な情報を削除できない
- 研究目的, 解決方法
 - ユーザの観点でペルソナを利用することで, 不必要な項目・情報を特定・削除
 - ユーザの観点でインスペクションするための手法の提案
- **期待効果**
 - ユーザの観点からの後工程(設計)を見越したインスペクション
 - ユーザの観点を考慮した設計
 - ペルソナ定義から必要事項の判断基準の明確化

今後のスケジュール

Pragmatic 品質 IEEE830の 品質特性



直近

8/24 ~ 8/29

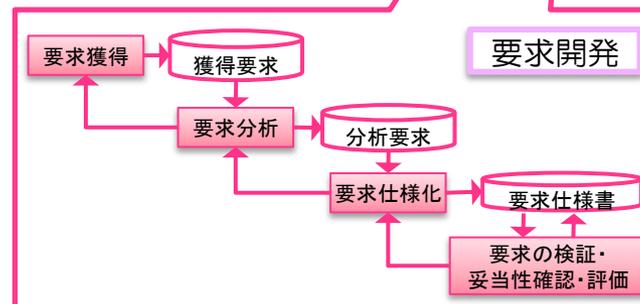
- ペルソナについて理解を深める
- ペルソナを要求獲得, 分析で利用した際にSRSに漏れる事項はあるか考察
 - ユーザの観点で必要なプラグマティック品質の考察
- ユーザの観点からのインスペクションを行うタイミングについて考察

8/31 ~ 9/11

- 前週の残りを片付ける
- 合宿に向けてまとめ・準備
- 予稿執筆準備

9/12 ~ 9/14

- 合宿!



8月

日	月	火	水	木	金	土
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
9月						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14

中間発表まで

- 8月上旬 : インスペクションの着眼点の検討
- 8月下旬 : インスペクションプロセスの確定, 予稿執筆開始
- 中間発表後 : 提案プロセスの検証方法の検討~適用, 他



ユーザの観点を利用した
インスペクションについての考察
- END -



南山大学大学院 数理情報研究科 数理情報専攻
M2012MM022 森下 月菜